動詞の活用（下一・下二・上一・上二）③　　解説編

今回の目標は、活用表が書けるようになることです。

4　下一段活用（とは「　エ　」段のみで活用するということ）

基本形	語幹	未然形	連用形	終止形	連体形	已然形	命令形	行
蹴る	（け）	け	け	ける	ける	けれ	けよ	カ行

（解説）

◎　活用表はテキストの通りに入れてください。語幹に（　）がついているのは、この「蹴る」は、基本形と終止形が同じです。ということは、「蹴る」全体で活用しており、活用しない「語幹」がない動詞という意味です。そのような動詞の場合は、このように活用表には書きます。今後も、このような動詞は出てきます。

◎　下一段活用動詞は、古文では「蹴る」だけです。口語（現代語）では、たくさんありますね。「食べる」「助ける」など、未然形（～「ない」につなげる）にした時、「食べない」「助けない」など、「エ」を引っ張るのが下一段です。でも、古文ではそのたくさんある今の下一段活用動詞は、ほとんどが次の「下二段」で活用します。これがやっかいですから、早く慣れましょう。

では、その下二段活用です

5　下二段活用（下二段とは「　エ　」段と「　ウ　」段で活用するということ）

基本形	語幹	未然形	連用形	終止形	連体形	已然形	命令形	行
上ぐ	あ	げ	げ	ぐ	ぐる	ぐれ	げよ	ガ行

（解説）

◎　みんなのプリントとは違い、文法書の「上ぐ」で解説します。

今の「上げる」という動詞です。今は、下一段で活用します。「上ぐ」を未然形（～ず）にした時に「上げず」と「エ」の音を引っ張ります。連用形も同じで、（～て）に続く言い方は今も同じなので言いやすいと思います。問題は次の終止形で「ウ段」にすることです。ここで「上げる」とするとアウトです。「上げる」と言ってしまうと、「上げるとき」（連体形）、「上げれば」（已然形）「上げよ」（命令形）となってしまいます。連用形の「げ」からウ段にして、「上ぐ」の終止形が作れるようになろう。

6 **上一段活用**（上一段とは「　イ　」段のみで活用するということ）

基本形	語幹	未然形	連用形	終止形	連体形	已然形	命令形	行
見る	（み）	み	み	みる	みる	みれ	みよ	マ行

（解説）

◎　これも語幹に（　）がついています。さっきの「蹴る」と同じで、基本形と終止形が同じです。ということは、「見る」全体で活用していることになります。上一段活用動詞はこれが多いです。

◎　上一段活用動詞は、口語でも上一段活用します。ですから、活用させるのはそう難しくはありません。ただし、今の上一段活用動詞は古文では、この上一段と上二段に分かれます。それが、難しいところです。ただし上一段活用動詞は限られているので、文法書にあるようにある程度は覚えてしまうことです。

7 **上二段活用**（上二段とは「　イ　」段と「　ウ　」段で活用するということ）

基本形	語幹	未然形	連用形	終止形	連体形	已然形	命令形	行
過ぐ	す	ぎ	ぎ	ぐ	ぐる	ぐれ	ぎよ	ガ行

（解説）

◎　みんなのプリントとは違い、文法書の「過ぐ」で解説します。

今の「過ぎる」という動詞です。今は、上一段で活用します。これを未然形（～ず）にした時に「過ぎず」と「イ段」の音を引っ張ります。連用形も同じで、（～て）の言い方は今も同じなので、言いやすいと思います。問題は次の終止形で「ウ段」のすることです。「過ぎる」と言うと、アウトです。ここで「過ぎる」と言ってしまうと、「過ぎるとき」（連体形）、「過ぎれば」（已然形）「過ぎよ」（命令形）となってしまいます。連用形の「ぎ」からウ段にして、「過ぐ」の終止形が作れるようになろう。

活用の種類で難しいのは、今回の上二段と下二段です。でも、慣れるので活用表を使って、いろいろな動詞を活用させてみよう。

次のプリントの「カ変」「サ変」はそれしかないので、活用表の通り覚えるようにしましょう。